

月	教材名	時	学習内容	評価基準
4月	朝のリリース	2	1 詩を通読する。 2 詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 3 詩の特徴を生かして音読する。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
4月	言葉に出会うために 野原はうたう 声を届ける 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう	3	1 国語で何を学ぶのかを考える。 2 「野原はうたう」の二つの詩を通読する。 3 速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを変えて音読する。 4 学習を振り返る。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
4月	はじまりの風	4	1 作品を通読する。 2 作品の全体像を捉える。 3 心情の変化を整理する。 4 整理した内容を基に話し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C1)イ) 【態】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
5月	季節のしおり 春	-	・桜にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ歌詞や詩、短歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
5月	【聞く】 情報を聞き取り、 要点を伝える。	1	1 情報を的確に聞き取り、要点を伝える必要がある場面を挙げる。 2 二次元コードの音声を開き、必要な情報をメモに取る。 3 メモを基に、相手に伝える内容を整理する。 4 情報を的確に聞き取るためのポイントを確かめる。 5 学習を振り返る。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A1)ア) 【態】進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。 【態】聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。
5月	言葉1 音声の仕組みや 働き	1	1 導入の課題に取り組み、音声の仕組みや働きについて関心をもつ。 2 母音と子音について理解する。 3 音の高さ・強さについて理解する。 4 学習を振り返る。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) 【態】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
5月	話の構成を工夫しよう 一枚の写真をもとにスピーチをする	4	1 スピーチの材料を集める。 2 話の構成を考え、練習する。 3 スピーチの会を開く。 4 学習を振り返る。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A1)ウ) 【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
5月	漢字1 漢字の 組み立てと部首 漢字に親しもう 1	1	1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 2 偏旁冠脚について理解する。 3 部首の種類について理解する。 4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 5 P40「漢字に親しもう1」の問題に取り組む。	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5月	ダイコンは大きな根?	2	1 本文を通読する。 2 文章の中心的部分を捉える。 3 段落の役割について考える。 4 考えたことを発表し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C1)ア) 【態】文章の中心的部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。
5月	ちょっと立ち止まって	3	1 本文を通読する。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 3 文章の構成に着目し、その効果を考える。 4 考えたことを伝え合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C1)ア) 【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
6月	情報のレッスン1 比較・分類	1	1 学習の目的を理解する。 2 情報を比較・分類する方法を確かめる。 3 問題1～2に取り組む。 4 学習を振り返る。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【態】情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
6月	情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く	4	1 情報をあつめ、整理する。 2 構成を考える。 3 文章にまとめる。 4 交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B1)イ) 【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。
6月	言葉2 指示する語句と 接続する語句	1	1 道隆の課題に取り組み、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 3 接続する語句について理解する。 4 学習したことを日常につなぐ。	【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ) 【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
6月	空の詩 三編 【書く】詩の創作 教室	3	1 三つの詩を音読する。 2 詩について、感じたことを交流する。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 4 最も印象に残った詩について発表する。 5 学習を振り返る。 6 空の詩を作り、「空の詩 三編」に加える。	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) 【思・判・表】

				・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
6月	言葉3 さまざまな表現技法	1	1 導入の例を読み、表現による印象の違いを挙げる。 2 「比喩（たとえ）」を読み、比喩の種類による印象の違いを考える。 3 「反復」「倒置」「体言止め」「省略」「対句」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) 【態】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
6月	比喩で広がる言葉の世界	2	1 本文を通読する。 2 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉える。 3 比喩について理解を深める。 4 生活への生かし方を考え、伝え合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) 【態】進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
6月	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう	2	1 導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 2 文法1「言葉の単位」の本文を読む。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ) 【態】単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
7月	語彙を豊かに 心情を表す言葉	1	1 学習の目的を理解する。 2 印象に残った出来事について、そのときの気持ちをはっきりと表す。 3 気持ちを表す言葉を選ぶ。 4 気持ちにぴったりの言葉を選ぶ。 5 学習を振り返る。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【態】今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
7月	情報収集の達人になろう コラム 著作権について知ろう	3	1 調べるテーマを決める。 2 図書館やウェブサイトから情報を集める。 3 情報を読み取る。 4 行動宣言をまとめる。 5 著作権について知る。 6 学習を振り返る。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。
7月	読書を楽しむ	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 2 「ポップ作り」「読書掲示板」「読書記録」の中から、夏休みに行く活動を選ぶ。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 4 ポップ、読書掲示板用の感想、読書記録を提出する。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
7月	本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の電気が死んだ ブラインドの向こうに見える光 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い	1	1 「本の中の中学生」の三編の作品を読む。 2 学校図書館などを利用して、「本の中の中学生」というテーマで一冊選び、推薦文を書く。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。
7月	季節のしおり 夏	1	・風にまつわる言葉や夏の情景を詠んだ詩、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
9月	大人になれなかった 第2たちに…	4	1 作品を通読する。 2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 3 題名のもつ意味について考える。 4 表記に込められた、作者の意図を考える。 5 思いを伝える朗読会をする。 6 学習を振り返る。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。
9月	星の花が降るころに	5	1 作品を通読する。 2 「私」を中心に作品の内容を押さえる。 3 場面や描写を結び付けて読む。 4 印象に残った場面や描写を語り合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。(1)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。(C(1)ウ) 【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
9月	項目を立てて書く 案内文を書く	3	1 案内文の書き方を確かめる。 2 案内する事柄と相手を決め、情報を整理する。 3 案内文を作成する。 4 学習を振り返る。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書くようとしている。
9月	[推敲]読み手の立場に立つ	1	1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。 2 書きかえた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。 3 学習を振り返る。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) 【態】粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。
10月	言葉4 方言と共通語	2	1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。 2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。 3 P120「消滅危機言語」を読み、方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について理解する。	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ) 【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。

10月	聞き上手になろう 質問で話を引き出す	2	1 聞き方や質問のしかたを学ぶ。 2 二人一組で対話の連取をする。 3 学習を振り返る。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】 進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
10月	漢字 2 漢字の音訓	1	1 導入部分を読み、漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。 2 「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。 3 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。	【知・技】 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
10月	「言葉」をもつ鳥、 シジュウカラ	5	1 本文を通読する。 2 文章の構成と内容を捉える。 3 論の展開に着目し、その効果を考える。 4 結論に説得力をもたせるために、どのような工夫をしているか、本文の記述や図表などを根拠として、自分の考えを文章にまとめる。 5 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) 【態】 文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
10月	思考のレッスン 1 意見と根拠	1	1 本文を読み、意見の根拠を明確に示すことの大切さを理解する。 2 適切な根拠について考える。 3 意見と根拠の結び付きを考える。 3 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【態】 根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。
10月	根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する	5	1 課題を決め、調べる。 2 構成を考える。 3 レポートを書く。 4 レポートを読み合い、交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) 【態】 根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
11月	漢字に親しもう 3	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
11月	文法への扉 2 言葉の関係を考えよう	2	1 P189の導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。 2 P242-246文法2「文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」を理解する。	【知・技】 単語の類別について理解している。(1)エ) 【態】 単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。
11月	聴きひたる 大阿蘇	1	1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 2 詩の朗読を聞いて感じたことや考えたことを交流する。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【態】 進んで言葉の響きやリズムを味わい、五感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
11月	季節のしおり 秋	-	・月にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ俳句や和歌、小説の一説を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
11月	音読を楽しもう いろは歌 古典の世界	1	1 P154「いろは歌」を音読する。 2 P156「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。	【知・技】 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ) 【態】 古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。
11月	蓬萊の玉の枝 —「竹取物語」から	4	1 作品を通読する。 2 古典の文章について、現代の文章との違いを確かめる。 3 描かれている古典の世界を想像する。 4 学習を振り返る。	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】 進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。
11月	今に生きる言葉 [書く] 故事成語 を使って体験文 を書こう	3	1 漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。 2 本文を読み、故事成語について理解する。 3 故事成語を使って、体験文を書く。 4 学習を振り返る。	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えていく。(B(1)イ) 【態】 積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
11月	「不便」の価値を見つめ直す [書く] 根拠を明確にして、意見をまとめよう	4	1 本文を通読し、内容を捉える。 2 筆者の考えを要約する。 3 根拠を明確にして、意見をまとめる。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】 積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。
12月	思考のレッスン 2 原因と結果	1	1 例題や問題から、原因と結果を抜き出し、どのようにつながっているかを整理する。 2 例題や問題から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。 3 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。

12月	漢字に親しもう 4	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
12月	「話し合い（進行）」 進め方について考えよう。	1	1 二次元コードの動画を視聴し、「やってみよう」①②に取り組む。 2 「よりよい話し合いにするために」を読み、話し合うときに効果的な工夫について理解する。 3 学習を振り返る。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。
12月	季節のしおり 冬	-	・冬の植物や動物にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ詩や短歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
12月	課題や展開を捉えて話し合おう グループで語り合い、ものの見方を広げる。	4	1 話し合いの目的と話題を確認する。 2 自分の意見をまとめる。 3 グループで語り合う。 4 話し合いを振り返る。 5 学習を振り返る。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
12月	研究の現場によるこそ 四百年のスローライフ はやぶさ2最強ミッションの真実 読書案内 本の世界を広げよう	1	1 「四百年のスローライフ」「はやぶさ2 最強ミッションの真実」を通読する。 2 感想を伝え合う。 3 「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
1月	少年の日の思い出 「書く」別の人物の視点から文章を書き換えよう	7	1 作品を通読する。 2 作品の展開を捉える。 3 「僕」の心情の変化をまとめる。 4 別の人物の視点から文章を書き換える。 5 学習を振り返る。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。
1月	文法への扉3 単語の性質を見つけよう	2	1 P189の例題に取り組み、単語の性質について考える。 2 P247-250文法3「単語の分類」を読み、「自立語と付属語」、「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について理解する。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
1月	二十歳になった日	4	1 作品を通読する。 2 随筆の内容を捉える。 3 構成や表現の効果について考える。 4 自分が考える表現の効果について語り合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) 【態】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
2月	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	5	1 随筆の題材を選ぶ。 2 具体的な材料を書き出す。 3 構成を考える。 4 学習を振り返る。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。
2月	漢字3 漢字の成り立ち	1	1 漢字の成り立ちについて理解する。 2 漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の成り立ちを調べ、分類する。	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
3月	一年間の学びを振り返ろう 要点を資料にまとめ、発表する。	3	1 観点を決め、学習を振り返る。 2 情報を整理し、発表内容を決める。 3 発表用資料を作る。 4 グループ内で発表する。 5 学習を振り返る。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。
3月	僕がここに	2	1 詩を読み、印象に残った表現を発表する。 2 表現の意味や、表現技法について考える。 3 作者の思いについて語り合う。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) 【態】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
3月	国語の力試し	1	1 問題に取り組む。 2 2次元コードから、発展問題に取り組む。 3 振り返る。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) ・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確

				かめて、文章を整えている。(B(1)エ) 【知・技】 ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) ・ 音読に必要な文語のさまりを知り、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) 【態】 今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。
合計		140		

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	定期テスト・小テスト	定期テスト・ワークシート	ワークシート・ノート 課題の取り組み